

セツの家系・家族を引き受けたハーン

西川盛雄 11/22/2018

学術資料調査研究推進室

[1] はじめに

明治維新：身分制度(士農工商)の崩壊 — 士族の没落
大政奉還 (K3) 王制復古 (K3) 五箇条の誓文 (M1) 江戸城明け渡し(M1)
藩籍奉還(M2) 廃藩置県(M4) 明治改元 (M1, 9月) 華族・士族・平民

松江： (松江) 千鳥城

セツ：慶応4年(1868)2月4日誕生 (節分の日に生まれる?)

父親 小泉弥右衛門湊 8代目弥右衛門 元因幡^{いなほ}の侍から出発

母親 チェ 家老・塩見増右衛門の一人娘 器量良し 14歳で小泉家に嫁ぐ
M8年に家禄奉還)

[2] 小泉家

鳥羽伏見の戦(1868) — 幕府軍敗北 官軍勝利 筆頭家老(大橋茂右衛門)切腹
小泉弥右衛門(5代) — 小泉弥右衛門真種(6代)

(本居宣長の弟子、セツの曾祖父)

小泉弥右衛門岩苔(7代) 乙部家からの婿養子

小泉弥右衛門湊(8代) セツの父

塩見小兵衛(5代、家老) — 塩見増右衛門(6代、家老) — 塩見小兵衛(7代、中老)

母チェは第7代塩見小兵衛の妹でお姫様

[3] 稲垣家

誕生七日目の「お七夜」の次の日 稲垣家へ養女(稲垣金十郎・トミ夫妻24歳)

万右衛門保仙(戸主)・100石並士の家柄 菩提寺は万寿寺

藩主松平定安の藩籍奉還 — 士分の侍の家禄の激減 一律32石となる

小泉湊は300石 —>32石 大橋家(筆頭家老)は4130石 —>32石

セツはヴァレット(松江のフランス軍事顧問)から虫眼鏡をもらった

[4] 高浜家 (セツの物語好き)

セツの養母のトミはキ築の高浜家の養女

高浜家は出雲大社の社家で代々高級神官 セツはトミから話を聞く

[5] 塩見家 — セツの実母(チェ)の実家・・・現在の武家屋敷・塩見縄手

セツの母方の祖父 塩見増右衛門

松平斉貴(なりたけ) <出雲松平家9代>の諫死事件

1851年のお国入をせず江戸に留まる—3度の諫言も聞かず
江戸の歌舞伎狂言『三本杉(家紋)家老鑑』のモデルになる—セツの心に留まる

[6] 士族の没落

江戸期までの礼節と戦の術の世の終り 日本(当時)全人口の5% 190数万人

例:ある封建の世の教養ある武人

新しい事業を起こす(牛乳、肉屋)、古い職業観に立つ母親の自害、
先生になる希望(師範出ではない)、囲碁指南で生計、ドアマン
多くは家財を売り払う、酒による自暴自棄 時に娘を売る 士族乞食
『知られぬ日本の面影』

[7] セツの周辺:セツ小学校下等教化課程修了後織子となる

明治四年、松江城廢城 城主去り中央政府からの県知事が来る。(廃藩置県)

救済作として「家禄の奉還」で米の支給額の6年分を一括して下付(M7~8)

士族の商法の失敗続出 セツの養父稲垣金十郎も失敗者の一人になる(セツ7歳)

高浜家一家8人の寄寓(セツ10歳) (セツの養母トミが高浜家から来ていた)

高浜家の一人ノブさんは熊本の本家のハーン家の食客になる理由

セツは11歳で家貧しさのため、成績優秀にも関わらず小学校下等教化で学校を終える

[8] ハーンの本郷時代

明治24年(11月19日)春日駅到着

ハーン、セツ、車夫、女中 4人 (途中で車夫を帰す)

同居: 金十郎、トミ、万右衛門 桜井ヨネ(富田屋女中)、松(松江の西洋料理屋より)、
信喜代(高浜家:養母トミの養母の孫)

お梅(熊本で雇う) 一雄の誕生(M26, 11月17日)

朝食: 玉子とトースト、レモネード(小匙一杯のウイスキー)、ブラックのコーヒー
出かける時(帰宅の時)は家じゅうが見送りで玄爛に集まる

熊谷正義(隠岐で出会って養子にしていた)を実家に送り返す—洋妾の唄を歌う
座に着くときは年齢に従って(老人が上座)ハーンは4、セツは5番目

セツの努力: トーマル(tomorrow)、トーナエタ(tonight)、シペーキ(speak)、
ワエン(wine)、

ヘルンさん言葉(セツとの会話のためのハーン特有の日本語)

四つの旅行: 博多(ハーン、セツ) M25, 4

京都、奈良、隠岐(ハーン、セツ) M25, 7/16 から二か月の旅 q

長崎(ハーン) M26 7/22 「夏の日の夢」

金毘羅参り(ハーン、セツ、一雄、トミ) M27, 4/3~6

[9] まとめ